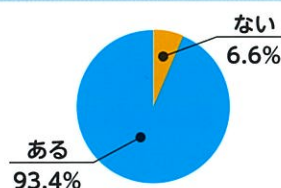


主体的な学びへの取り組み

昨年8月、市内の小・中学校の先生方を対象に「子どもの主体的な学び」についてアンケートを実施いたしました。本調査の目的は、先生方の意識や取り組み状況、悩んでいることなどについてまとめ、共有することで、今後の指導に役立てていただくというものです。ぜひ話題にしていいただければと思います。結果の詳細については下記二次元コードよりご確認ください。

※アンケートの調査対象となった方のみ二次元コードからの確認が可能です。

担当されている学級・教科において、
子どもの主体的な学びのために、
工夫していることはありますか？



小学校詳細



中学校詳細



もっと時間が
欲しいのに…

- ・教材研究
- ・実践交流
- ・研修会参加

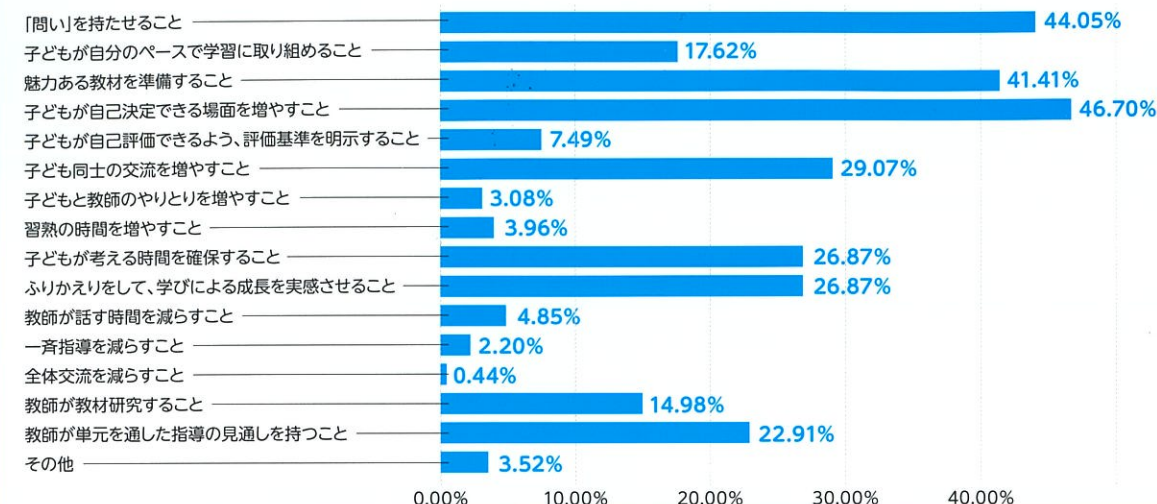
もっと
どうにかしたい…

- ・子どもの学力差
- ・子どもの意欲の差
- ・個と協働のバランス

もっと
取り組みたい…

- ・学びの充実
- ・協働的な学び
- ・ICT活用

子どもの主体的な学びのために、教員が授業で大切にすべきものは何だと思いますか？ (※3つ以内で回答)



米沢市立
広幡小学校

「考えてやってみよう」「伝え合おう」 「やり直してみよう」から自立した学習者へ

1. ～学び創り～ 見方・考え方を働かせた授業づくり

教科の見方・考え方を働かせ、主体的な学びが展開される単元構成・授業づくりをテーマとして日常的な授業改善に取り組んでいます。多様な学び方を仕組むことで、子供たち自身が合言葉の学びに価値を見出し、学びのサイクルが回り出す姿を目指し、挑戦しています。その中で、児童も教員も新たな学び方を獲得し、自分に合う、課題に合う学び方を選択し解決していく力が高まるようにしています。

- ◎単元内・時間内自由進度学習
- ◎学習方法の自由選択
- ◎クラウドでつながる協働的な学び（他者参照・共有）



▲ 学習方法選択 & 他者参照の場面

2. ～くらし創り～ 子供主体の教育活動づくり

「明日また行きたくなるたのしい広幡小」を目指し、自分たちのくらしを、主体的でたのしいものに改善する取り組みをして2年目になります。ここでも、合言葉を意識して取り組んでいます。今年度は、新たに「広幡大好き委員会」と「友達大好き委員会」を組織し、「たのしい学校」を意識したワクワクする活動が展開されています。

【児童と共に創り上げる活動】

- ◎地区運動会（応援づくり・地域に働きかける競技づくり）
- ◎創立100周年記念式
（合唱づくり・発表づくり「広幡カルタ」）
- ◎学習発表会（地域テーマの生活科・総合の学びの発信）

【学校生活をつくる主体者が児童になる取り組み】

- ◎月目標から学級スローガンに対する取り組み
- ◎担当者提案募集型クラブ活動
- ◎目指す学校をつくるための委員会活動
（委員会活動の再組織）

3. 生活科・総合的な学習の時間を中核においた教科経営

各学年大テーマを設定し、年間を通して、資質・能力を明確にして、学びにつながりが生まれる教科経営を行っています。

月に1回、全教員による「カリマネタイム」を行い、他学年の学習の様子を聞き、方向性を確認・改善したりアドバイスし合ったりして、主体的な学びがダイナミックに展開されるようになりました。

R6年度の各学年のテーマ▶

- 1,2年 友達100人プロジェクト
～広幡仲良しサロンを開こう～
- 3,4年 米沢の魅力広め隊！
- 5年 ぼくたち・わたしたち広幡レンジャー
- 6年 広幡の魅力を発見し、学びを伝えよう

4. 「コノユビトマレ会」の活用

授業や教育活動を計画するにあたり、育成したい児童の姿を具体的に話し合い、手立てを共有することを大切にしています。企画担当者が悩んでいることを話したり、アイデアを出し合ったりする「コノユビトマレ会」は、児童の姿を思い浮かべながら和気あいあいと頭を寄せ合い話し合う時間です。教員の心をつなぐ時間が、活動するときの児童の安心感や支援につながり、主体的な学びを作り出しています。

米沢市立
第七中学校

生徒一人ひとりの学びを支える ～自由進度学習と校内研究の取り組み～

1. 本校の校内研究の課題

本校は「自ら求め学びを深める生徒の育成～学びの実感を得ることができる学習活動を通して～」を研究主題に掲げ、基礎基本の充実、自分の考えやできたことを表現できる対話的な学びの実現を目指しながら、主体的な学びを充実させる取り組みを進めています。しかし、日々の授業で「学力差が広がっている」「得意な子にも苦手な子にも十分な支援ができていない」といった課題を感じている先生方が多くいます。そこで、数学科で実践している「単元内自由進度学習」を校内研究で取り上げ、研究を深めていくことにしました。

2. 数学科における自由進度学習の実践

単元内自由進度学習とは、いわゆる一斉授業とは異なり、個別最適な学びと協働的な学びを実現する学習スタイルです。一つの単元の中で、生徒一人一人が課題や学び方を自ら選択・決定し、計画を立てて学習を進めていきます。数学科では、次のような流れで学習を進めています。



▲ 一人一人の学習の様子



- ① 単元の最初の授業で全体の流れを学習計画表で確認する。
- ② 「本時のめあて」を自ら立てる。
- ③ 自分が選んだ学習方法、および自分のペースで学習を進める。
- ④ 振り返りを行い、学んだ内容を他の生徒と共有する。

◀ 本時のめあて、振り返りを表示

この学習スタイルを通して、理解度の高い生徒はより深い学びが可能になり、苦手な生徒に対しては個別にじっくりサポートできるようになりました。また、生徒同士の学び合いも活発になり、学習に対する姿勢も前向きな変化が見られるようになりました。

3. 数学科での実践を全職員で共有

数学科での実践を、以下のように校内研究として全体で共有し、研究を深めました。

- ① 期間を決めて、各自、数学科の授業を参観し、研究の重点に関わる視点で考えたことや学んだことを個人でまとめる。
- ② 校内研修会で共有し、今後の授業に生かせることをまとめる。

今後は、主体的な学びと本校のもう一つの課題である「基礎基本の充実」を両立させながら、七中生の実態に即した授業スタイルや指導方法を探っていきたいと考えています。